

クルーズサマリー

1. 航海情報

航海番号：

NT10-14

船舶名：

「なつしま」

航海名称：

平成22年度「ハイパードルフィン」調査潜航

首席研究者：

鈴木晋一（事業推進部広報課）

課題代表研究者：

田代省三（事業推進部広報課）

研究課題名：：

「ハガキにかこう海洋の夢絵画コンテスト」副賞体験乗船、及び
『ハイパードルフィン』深海実験企画募集」採択テーマ実施乗船

航海期間：

平成22年8月13日（金）～平成22年8月17日（火）

出港地～寄港地～帰港地

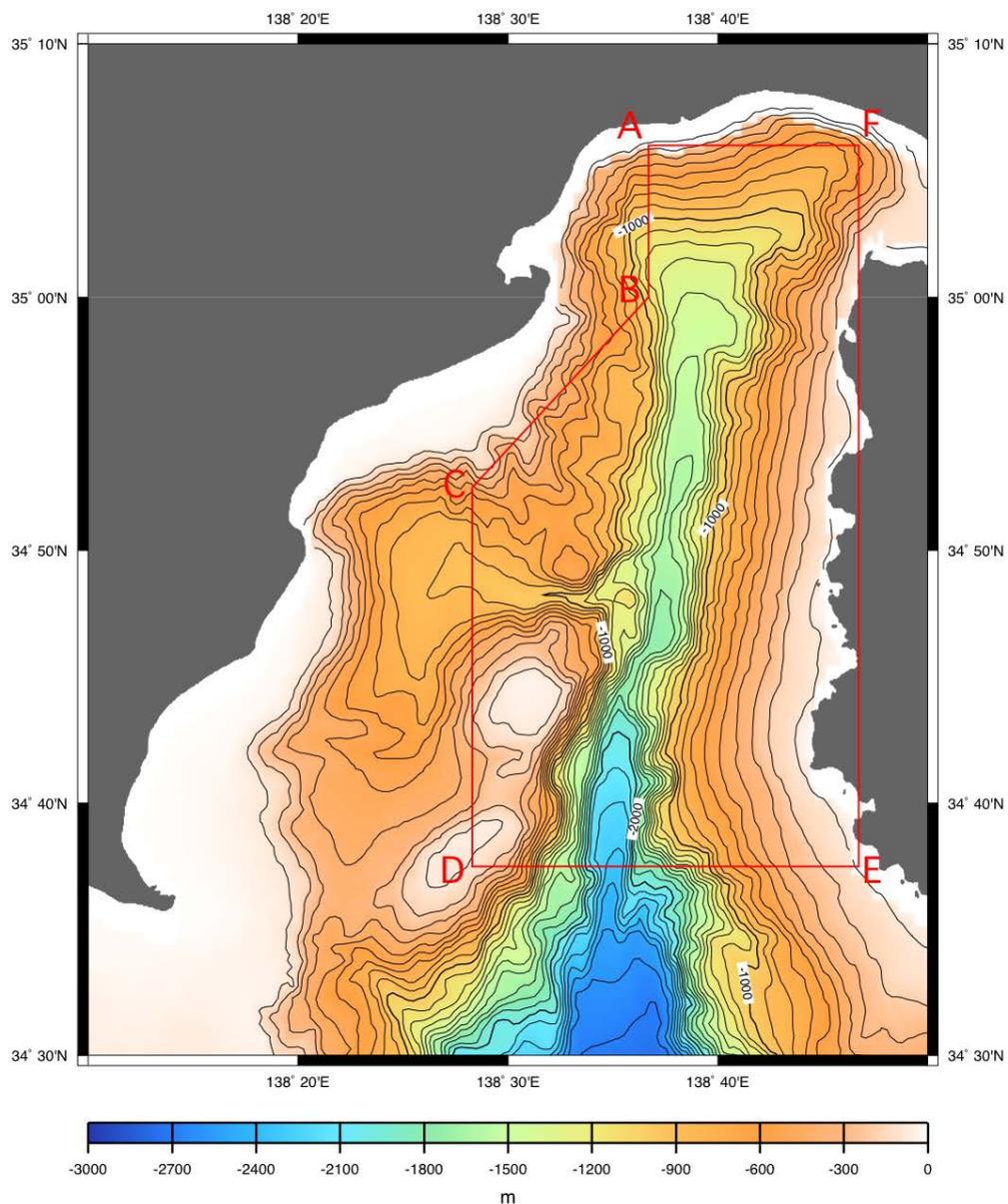
平成22年	8月14日	清水港	出港
	8月14日	清水港	帰港
	8月15日	清水港	出港
	8月15日	清水港	帰港
	8月16日	清水港	出港
	8月16日	清水港	帰港

調査海域名：

駿河湾

調査マップ：

ID[M10-171] BATHYMETRIC MAP



GMT Jun 24 13:57 Data=JODC, Grid Interval=500m, Contour Interval=100m, Mercator Projection
GMT Jun 24 13:57 Copyright.2010, JAMSTEC(M10-171), <http://www.jamstec.go.jp/>

駿河湾の下記A～Fで囲まれる海域の内、陸域を除いた水深600m以深の海域。

A : 35° 06.00' N、138° 36.70' E

B : 35° 00.00' N、138° 36.70' E

C : 34° 52.50' N、138° 28.30' E

D : 34° 37.50' N、138° 28.30' E

E : 34° 37.50' N、138° 46.70' E

F : 35° 06.00' N、138° 46.70' E

2. 実施内容

2.1. 調査概要

〔目的〕

第12回全国児童「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」の副賞として、入賞者の児童たちに海洋調査の現場を見学、体験してもらう。海洋に夢を持つ子どもたちの啓発、教育を目的とする。今年も「海とさかな」自由研究・作品コンクール、海洋研究開発機構理事長賞受賞者の児童も乗船し、より多くの子どもたちに体験の場を提供した。

また、事前にハイパードルフィンを使った深海実験の企画案を一般より募集し、優秀と認められた実験を実施した。実験の様子は、採用された深海実験の企画提案者が運営するWebメディア（ホームページやブログなど）で公開され、これにより、広く一般に当機構の活動および深海について伝わることを期待される。

〔実施項目〕

- (1) 日 時：平成22年8月14日（土）～8月16日（月）07:00～18:00
- (2) 場 所：静岡県清水港～駿河湾戸田沖及び土肥沖
- (3) 参加者：上位入賞者とその保護者1名 計14組
(1日目：5組（小3～中1）、2日目：4組（小3～小6）、3日目：5組（小3～中1）)
- (4) 解説員：海洋・極限環境生物圏領域 招聘研究員 三宅裕志、
海洋・極限環境生物圏領域 広報課アルバイト 伊東崇
- (5) 課題採択者：藤井友紀子、千田裕子、住井亮暢

〔実施結果〕

1日目（HPD#1170）は、戸田沖に潜航することとした、海域到着までの間に出港風景の見学、各種の説明事項と記念に潰す発砲カップ制作などを行い、船内の見学を行った、潜航中は昨年同様に参加者より募集した各種の実験、海底及び生物の観察、HPDの操縦体験などを行い、その後はHPDのコントロールルームでの浮上中の観察、揚収作業見学などを行った。清水港への回航中にサンプルの観察や実験などをラボで行い、着岸作業中に参加者各自の体験乗船のまとめ、下船後に記念撮影を行い解散。2日目（HPD#1171）は、土肥沖に潜航し、基本計画は1日目とほぼ同様としたが、HPDの浮上中は前日の生物サンプル観察と解説とした。本潜航から広報課がWebで公募していた企画実験を実施。3日目（HPD#1172）は再度戸田沖の潜航、基本計画はほぼ同様とし、若干、生物の観察に時間を取る予定であったが、HPDの油圧トラブルがあり、潜航時間が2時間弱短縮されたため、「なつしま」の操船体験を行い、その後の予定時間を長くすることで調整し、前日までの参加者よりは多少早めの解散となった。各潜航で多少内容に変化はあるものの現場での解説は参加者の興味を引くことができたと思われ、充実した調査船での活動を体験していただけたと考えられる。